

囲碁文化の楽しみ

西暦220年漢が滅亡し、中国は混乱の時代を迎えた。そして曹操の魏・孫権の呉・劉備の蜀が誕生し、三国時代を迎える。(来年(平成17年)7月、文化財団では人形劇「三国志」の公演を予定しています。御期待下さい。)

その三国志に登場する関羽は劉備、張飛と桃園の誓いを結び蜀の建国に貢献し、後に金儲けの神様として祭られている武将でもあるが、この関羽が、ある戦いで敵の攻撃に会い、矢の一本が右腕に命中した。

関羽は落馬し撤退を余儀なくされ、自分の城に戻り華陀という名医により右腕の切開手術を受けた。この時代に麻酔などない。関羽は酒をあおりながら、他の武将と碁を打ち進め、手術を受けたという。碁に熱中して痛みをこらえたのである。

日本の囲碁の歴史も古い。

奈良の正倉院には聖武天皇が愛用した今から千二百五十年前の碁盤がある。清少納言や紫式部は碁が強かった。鎌倉時代では日蓮上人が有名だ。秀吉や家康も碁を打った。明治には西郷隆盛、大久保利通、伊藤博文の名があがる。

囲碁は四千年の歴史を持つと言われています。(五千年という人もいます。)

中国で生まれたというのが本命のようですが、インドのヒマラヤとか諸説があり、更に最初は占いの道具であり、また十七路盤(現在使われている碁盤は十九本の線が縦横に引かれた十九路盤)であったと言われていました。言ってみれば正確には囲碁はいつ頃、誰によって打ち始められたのか誰も解らないそうです。

しかし、太古の時代から囲碁があったことは事実で、現在まで絶えることなく継続してきた文化であり、これほど歴史のある文化は画とか書を除けば他に類をみません。

長い歴史が囲碁のすばらしさ、楽しさ、奥深さを実証しているのです。

さて、囲碁はなぜ素晴らしいのでしょうか。四千年の歴史は何を意味するのでしょうか。2・3年前にチェスのチャンピオンがコンピュータと対戦し、コンピュータに負けたという報道がありました。チェスの世界では人間よりもコンピュータの方が勝る時代になったのです。将棋ではコンピュータがアマの高段者に近くなりつつあると言います。ところが囲碁はまだまだアマの初段程度の力だそうです。囲碁は奥が深いのです。ここに囲碁の面白さの原点があるのでしょうか。

囲碁教室に通っている小学生を見ていて、いくつか感じるがあります。囲碁は勝敗を決めるゲームであるので、必ずどちらかが負けます。負けるのは大人でも悔しい。テレビゲームに熱中する子供がいざ碁盤に向かうと、本人は無意識の内に負けるのを避けるために随所の勝負所で懸命に考えています。子供に大切な思考力が着実についていくのです。また囲碁は勝負所まで辛抱をしなければならないことも多いのですが、子供もこれに対応し、囲碁を打つ子供は実戦の中で「我慢強くなった」とよく言われます。

子供だけではありません。囲碁は無限の可能性を持っているから面白い。経営等の戦略企画力がつく。判断力が養われる。計算が早くなる。頭の老化を防ぐ。友達ができる。いいことばかりではないでしょうか。

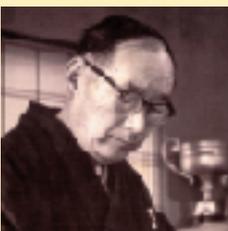
平塚は「囲碁のまち」をめざしています。平塚市文化財団は、だれでもが囲碁が打てるような環境を、囲碁を覚えることができる環境を整備していきます。ぜひ一生の財産である囲碁をあなたのものにして下さい。

(財団では平成17年1月9日から3月までの毎週日曜日10:00~12:00 ホテルサンライフガーデンでモーニング囲碁入門教室を開催します。 会費三千元 申し込み先: 電話で平塚市文化財団へ TEL.0463-32-2237)



2004湘南ひらつか
囲碁まつりより

(文責 平塚市文化財団 多田博幸)



● (仮称)木谷實ギャラリー開設のお知らせ ●

平成17年1月中旬に平塚市民センター内市民ロビーに(仮称)木谷実ギャラリーを開設します。これは桃浜町に居を構え、多くの囲碁棋士を育てた故木谷実九段の紹介と併せ、囲碁を知らない方でも囲碁に親しめるようなコーナーをつくる予定です。

お問い合わせ先: 平塚市市民部文化行政推進室 TEL.0463-32-2235



発行//平塚市(文化行政推進室)

〒254-0045 平塚市見附町15-1
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/>

●お問い合わせ

施設利用に関すること TEL 0463-32-2235

事業に関すること TEL 0463-32-2237

FAX 0463-31-6466

